

令和6年度 壬生中学校 学校運営協議会（第3回）

議事録

令和7年2月25日（火）15:30～16:30

【開 会】

1 ごあいさつ

会 長：卒業式も間近。今年度を締めくくり、来年度につなげたいので、たくさんのご意見をどうぞよろしくお願ひしたい。その意見を先生方に還元できればと考えている。

校 長：先日開かれた「3年生を送る会」は心温まる会だった、昇降口には3年生からのお礼のメッセージが掲示してある。本日の「学校関係者評価」では、忌憚のないご意見を頂戴したい。1月に壬生町の教育研究発表会が行われ、本校からも「生徒のより良い学校生活を支える校則の見直しの実践報告～みんなが『明日も学びたい』と思える学校を目指して～」というテーマで発表がなされた。校則見直しを通して生徒たちが自分で考えて動ける学校づくりに取り組んでいる。少しずつ成果が現れているところである。

2 協 議

（1）学校評価（自己評価・外部アンケート）結果と今後の改善方策

庶 務：「学校関係者評価委員会」の法的根拠の説明（学校教育法施行規則第66条、第67条、第68条の確認）。

委員A：アンケートは似た内容を聞いている。皆それほど評価は変わらないが、2「授業の分かりやすさ」は、保護者、生徒、教職員の回答結果が乖離している。推測だが、親保護者の教職員への見方は厳しいものがあると思う。

校 長：授業参観の機会は年間数回である。親が直接授業を見る回数も少ないし、子供に「授業が分かりやすいか」とはそれほど聞いていないのかもしれない。

委員B：4「思いやりの心が育っているか」について。教職員の生徒への見方が厳しいのではないか。

校 長：例えば「いじめ0」という考え方がある。それを実践するのは大変だが、教職員は「いじめ見逃し0」を目指している。そういった意識の違いがアンケート結果の乖離につながっているのではないか。

委員C：生徒は自分なりにこれくらいでいいやと思っている部分でも、教師の求めているものはもっと高いということではないか。

委員D：4「思いやり」、5「礼儀」、6「ルール・マナー」についても教師と生徒の回答が乖離している。教師のハードルが高く、生徒の自分自身への見方が甘いとも考えられる。自己肯定感を高めようという教育を推進しているのはとても素晴らしいが、大人になって「自分はこんなに頑張っているのに評価してくれない」と周囲に訴える人もいる。今は保護者もあまり子供を叱らなくなっている。何が正しくて何がいけないことなのかを小さいうちから身に付けている子の方が伸びる。だから、教師の厳しい評価も生徒と共有すべきだ。

委員E：放課後学習ボランティアをやっているが、女子が男子に汚い言葉を使っていて驚いてたしなめたことがある。仲間内で使う言葉が表面に出してしまう自己中心的な子もいる。褒める指導で自己肯定感が高いために、何を言ってもいいと思っている子もいるようだ。「親しき中にも礼儀あり」であり、線引きをしなければならない。

委員C：「保護者の自由記述結果」から、「校長先生」という文言が何度も見られて素晴らしい。普段の生徒とのかかわりが目に見えるようで嬉しい。

委員B：校長先生はずっとここにいてほしいと孫たちも言っている。素晴らしいことだ。

委員A：子供たちに交じって活動しているので子供たちもなついている。

委員B：外のトイレが部室棟に一つあるだけだが、校庭が広いのもう一つほしいという意見がある。

校 長：外トイレは和式便器しかなかったが、1月に工事が入り洋式便器が一つずつ設置された。町がすぐに対応してくれてありがたい。来年度は第一体育館の雨漏り工事やテニスコートの修

繕工事も入る。

委員D：「ピアルームに行く生徒が増加している」という内容について詳しく知りたい。

校長：今まで家にいた子供がピアルームに通えるようになったという意味合いが大きい。ピアルームから教室に復帰するようになった子も多い。ピアルームは「校内教育支援センター」として、その子に応じた学びの場を提供するという意図で運営している。ピアルームの内部は、円卓、ソファ、個別に学習できる机、刺激を調整するための間仕切りなどがある。教室がしんどいからピアルームに行く子もいる。その子に合った学びの場が広がったと考えている。

委員D：ピアルームという場所に対する皆の見方や理解が変わったということか。

校長：不登校は少しずつ改善しつつある。ピアルームは子供たちにとって大事な場所として機能している。

委員D：誰か常駐している教職員はいるのか。

校長：時間割の中にピアルーム担当教職員を位置づけている。7月からは教員助手も配置され、子供たちの相談に乗ったり勉強を教えたりしている。大変助かっている。

委員D：「地域住民の意見」を見ると、中学生と触れ合う時間が減ったという回答がある。廃品回収がなくなったことも一因だろう。コロナを機に皆が集まって何かをするという機会がなくなった。その流れを受けて、保護者も何もやらなくていいと思ってしまうている。保護者に地域と関わる意識を高めてほしい。ホームページをみると、3年生の総合的な学習の時間の取組に「壬生に還す」という内容があった。とてもよい取組だ。

校長：来年度のグランドデザイン「4努力点と具体策の(4)②に、(壬生中を多くの人が集まる場に)」という文言を加筆した。たくさんの方々に来ていただいたり、こちらから出かける活動をさせたいと考えている。ミシンボランティアや読み聞かせボランティア等を募集し、気軽に来ていただける体制を整えている。

委員F：ボランティアは人としてどう動くべきかを考えさせてくれる大切な活動だ。様々な経験を経て自分を成長させてほしい。3年6組の地域交流のイベントは、もっと早く告知できればもっとたくさんの方が集まったはずだ。

校長：ぎりぎりまで子供たちが自分で考えて動いてきた。告知も子供たち自身の手で行っていた。これからの活動のヒントとなった。

委員G：「保護者の自由回答」で、他校との学力の差という言葉が引っ掛かった。何を見てそう判断したのか。

校長：頑張ります。学力の伸びの測り方も考えなくてはならない。経年で追っていく測り方をした方がいいが、今は学年抽出の為変化が分からない。

庶務：埼玉県では毎年経年変化を見ている。栃木県では2年時に「とちぎっ子学習状況調査」を、3年時に「全国学力学習状況調査」を実施している。2年から3年にかけての経年変化は測れるが、それ以外はわからない。本校では学校課題に基づいて、それぞれの教科で生徒にアンケートを取っている。20項目あるアンケートの15項目で「自分の考えを説明できるようになった」「考える力が身に付いた」などの上昇がみられる。子供たちの力は伸びてきているのではないかと。校則見直しを契機に、様々なことを自分たちで考えていこうという雰囲気醸成されている。

委員G：部活動指導員はどうなっているか。

校長：水泳、女子バレーボール、女子バドミントン、剣道、美術、ソフトボールなどたくさんの部で運用されている。次年度の運用は顧問の異動と雇用の問題があるため、どのようになるのかは今のところ分からない。

委員G：部活動指導員は学校の問題だけではないということが分かった。広い視野で見していきたい。

庶務：学校評価をもとにPDCAサイクルを回すために、職員研修を実施して「プロジェクトチームによる学校教育目標実現のための具体策」を考えた。

庶務：主だった内容の説明。

委員D：「もっと遊ん day、もっと学ん day」とは何か。

庶務：生徒会役員の公約を実現させてあげる意味もあり、月に一回昼休みを40分間とり、子供たち自身が自分で選択して活動する場を設定した。体育館を開放して遊ぶ、校庭で遊ぶ、図書

室で本を読む、学習室で勉強する、教室で友人と話すなど、自分で判断して行動できる子を育成したい。

委員F：子供は体を動かすって楽しいと言っている。それぞれの子供たちがワクワクできる日になるといい。

委員D：この日だけでも登校して交流したいという子がいるかもしれない。

委員B：今のいじめとはどういうものなのか。

校長：教職員は個別に見てその子に対して、「これはいじめだよ」と言っている。冷やかしかからかいなどが散見されている。

委員B：どうやって教師に訴えているのか。

校長：自分で訴えることができる子供を育成している。心の健康観察で自分の心の状態を見つめ、相談しやすい先生を指名するシステムを構築している。中学生ともなると担任とは合わないという子もいる。そのためチーム担任制も考えている。

委員A：人間には相性があるから仕方ない。放課後学習サポートをやっているが、素直に手を挙げてここ教えてくださいと言う子や子供同士で教え合っている子もたくさんいる。

校長：いかにヘルプを出せるか、助けられ上手になれるかを援助している。授業の仕方もどんどん変わってきている。トーク&チョークの技法から、自分で説明したり手を挙げることのできる生徒を育成する授業へと転換している。

委員B：ヤングケアラーとして自分が犠牲になっている子はいるのか。

庶務：緊急の案件は現在把握していないが、もしそのような事態があった場合は速やかに対応する。

委員B：町の健康福祉課がどう対応しているのかを確認したい。

(2) 次年度の教育計画について

校長：令和7年度グランドデザインについて、ご意見があれば伺いたい。

庶務：令和7年度年間行事予定について説明。

(3) 次年度の学校運営協議会日程について

庶務：以下の予定について説明。

実施日時・会場		協議内容
第1回	令和7年 4月14日(月) 15:30~16:30(予定) 壬生中学校 会議室	・学校経営方針について(説明 承認) ・学校の現状や課題等に係る協議 等
第2回	令和7年 9月 5日(金) 12:30~14:30(予定) 壬生中学校 会議室・各教室	・給食会食 ・授業参観(教室訪問) ・学校の現状や課題等に係る協議 等
第3回	令和8年 2月24日(火) 15:30~16:30(予定) 壬生中学校 会議室	・学校評価アンケートの分析 ・次年度の教育計画検討 等

【閉 会】

プロジェクトチームによる学校教育目標実現のための具体策(学校評価の分析を通して)(思考ツール:マンダラ図法)

壬生中学校

AED研修・不審者対策研修実施(教職員・部活動指導員対象)	部活動ガイドラインの遵守	校内指導者講習の実施(全中経験教師等より)	ピアルームの活用(不登校支援・カームダウンルーム)	「今日の私の気持ち」を活用し、困り感の早期発見・解決に努める	チーム担任制を導入する(相談しやすい教師が速やかに対応する)	教科部会での授業づくり(指導訪問・一人一研究授業・美・音・技者は同一部会)	授業のねらいと授業のまとめの一体化	令和の日本型学校教育の実践(変わり続ける教師をめざして)
熱中症対策・荒天対策を室内・室外ごとに統一化	部活動指導	保護者会で顧問の運営方針を説明し、協力を依頼する	困っている生徒や保護者に多様な選択肢を周知	不登校の解消(居場所づくりと絆づくり)	空き教室を活用した少人数制授業・学びの場の確保	働き方改革による教材研究時間の確保とゆとりある生活時間の確保	学習意欲と学力の向上をめざした学習指導の充実	「壬生中学びのスタンダード」に基づく深い学びにつながる授業デザイン作成
各顧問の危機管理マネジメント能力向上(部活動顧問会議等で研修実施)	保護者・地域住民の協力を得た部活動運営	部活動地域移行化の積極的推進	付箋紙に良いことを描いて生活記録ノートに貼る	「プラスのストローク」で自尊心を高める(認めて褒めて励ます)	Q.Uの積極的活用(校内研修や学年研修を実施し、速やかに適切な対策をとる)	語彙力の向上により記述力アップをめざす授業づくり	ICTの適切な活用(目的達成の手段として活用)	外部指導者による職員研修の充実(授業改善意識の啓発)
学校設備の計画的な修理・修繕	自転車のルール・マナーの徹底	来校者への積極的あいさつ・声かけ(不審者侵入防止)	部活動指導	不登校の解消(居場所づくりと絆づくり)	わかりやすい授業、家庭学習の充実	各種通知のデータ配信とフォームによる回答入力	夢や希望のある本物に触れる学校教育	日課の見直し(もっと遊んday・もっと学んdayの設定)
いじめを生じさせない学級経営(居場所づくりと絆づくり)	安心安全な学校づくり	安心メールによる安全の啓発(保護者への協力依頼)	安心安全な学校づくり	学校教育目標の実現に向けた諸課題の取組	行事・業務の充実と精選	日直業務時の勤務割振	行事・業務の充実と精選	定時退勤日(リフレッシュデー)の設定
定期的な校内研修の実施(危機管理マニュアルによるシミュレーション)	熱中症警戒アラート発生時における対応のマニュアル化	情報モラル教育の充実(SNSトラブル等の未然防止)	地域とともにある学校	基本的生活習慣の習得	人権尊重の精神の涵養 いじめゼロ	「信じて・待って・見届ける」教師の姿勢により生徒の自主性を促す	勤務時間外の電話対応の明確化	他学年職員によるチーム支援(学年会議を勤務時間内に実施)
技能教科の実習見守りボランティア募集(ミシンボランティア等)	地域住民の協力を得た登下校見守り(一斉下校時等)	マイ・チャレンジの推進(地域とのかかわりを増やす)	時間や期限を守ることで相手を尊重する意識を高める	自分自身で生活目標を立て、しっかり実行する(社会的自立につなげる)	靴揃え・鞆の整頓等を通してきれいな教室環境をつくる(場を整える)	相談体制を整備し、悩みの早期発見・解決に努める	いじめ防止対策推進法の再確認	「壬生中いじめ防止マニュアル」をデジタル化し、いつでも確認できるようにする
校内美化・校内緑化ボランティアの募集	地域とともにある学校づくり	地域住民の作業室の設営(季節の飾り作成等)	教職員が率先してあいさつする(礼を正す)	基本的生活習慣の習得	校則「あゆみ」の意義を教職員と生徒で共有する(自分で考える力)	中央委員会が人権委員会の活動も兼ね。「壬生っ子いじめゼロ作戦」を通年で実施する	人権尊重の精神の涵養 いじめゼロ	保護者も対象とした人権セミナーやSNSトラブル講座開催
読み聞かせボランティアの募集(昼休み等)	放課後学習サポート事業の全学年実施(定期テスト前)	壬生町中学生地域参画事業(ちーたん)への積極的参画	教師の率先垂範(師弟同行)	学級のルールを自分たちで決めて生活する(自主・自律)	早寝早起き朝ごはんの確立(保健委員会活動・保護者への協力依頼)	構成的エンカウンターやソーシャルスキル活動を実施	認めて褒めて励まして信じて待って見届ける教職員	継続的な教師の「人権意識チェック」(チェックシート)